

1996.09.25 日本海新聞

「本庄工区の ヘドロ利用を」

高橋ゼミで小松氏

高橋経営研究会（笠井商
臣会長）のゼミナールが二
十四日、米子市内のホテル
で開かれ、松江市の小松昭
夫・小松電機産業社長が
「中海本庄工区の未来構想」
と題して講演した。

小松社長は、本庄工区問
題で、独自の構想を発表し
た話題の人。干陸予定地の
千七百秒を残し、栽培漁業
に活用。周囲に栽培漁業や
有機栽培などの産業群を立
地させる―という内容。

工区の湖底にある良質な
ヘドロを利用した画期的な
栽培漁業で、外洋の影響を
受けない本庄工区の水面は
実験に最適、という。

小松社長は「住専問題な
どでわかるように、今の官
僚制度は一度始めた事業が
しくじった場合、見直して
再構築する構造になってい
ない。私の代案は、閉そく
状況にある各地の国家的プ
ロジェクトを見直すきつか
けになる側面もある」と力
説。

最後に「本庄工区で行う
ヘドロの実験は、成果を世
界中に広げることができ
るもの。また、実験場として
本庄工区ほど恵まれた場所
は、ほかにはない。まさに
われわれは宝の山を持って
いる、と思うべきだ」と締
めくくった。